

2010年度教養文化研究所第3回公開講演会報告

教養文化研究所長 竹 中 彌 生

実施日時：12月15日

講 師：青島泰之氏

題 目：多様性の大切さ ——日本人と
中国人の隣人としての付き合い
方—

場 所：第二講義棟14階会議室



教養文化研究所2010年度第三回公開講演会は、元ユネスコ北京事務所長の青島泰之氏を講師に向え、満員の14階会議室にて行なわれた。青島氏は1970年東京大学土木工学科卒業後、スイス留学、鋼構造研究室助手を経て、日本鋼管（現在の JFE）に就職され、東京大学から工学博士号を取得されて後、1982年ユネスコパリ本部に就職、それ以来、様々な部署で活躍された後、2001年から2008年までユネスコの北京事務所長を勤められた。現在は、静岡市教育委員及び社団法人・日本技術者教育認定機構、専務理事・事務局長を勤めておられる。

現在多くの日本人が関心を持っている、多様性と中国との付き合い方という講演のテーマが多く関心を買ったと思われる、14階会議場は満席であった。青島氏は、その長い国際機関での勤務経験と様々な国の様々な人種との豊富な触れ合いの経験と7年間の北京勤務での体験から、先ず、国際連合について、そして UNESCO について大変わかりやすく説明され、学生にとっても大変役に立ったと思う。また当たり前のように知っているつもりで国連について多くの新しい発見をした人も多かったのではないだろうか。

UNESCO についてのお話の後、中国人のものの考え方、そしてその人たちとの日本人としての付き合い方についてお話しくださった。現在、我々日本人は隣国中国との難しい問題を抱え、どのようにこの国の人々と付き合いえば良いのか、大変困難な局面に直面している。青島氏は、隣国中国との付き合い方を、国家間ではなく民族間との付き合い方という観点から、ご自身の実体験を交えながらお話しくださったが、現在最も時宜に適したテーマで、聴衆は大変熱心に耳を傾けていた。また、講

演後の質疑応答も、尖閣諸島の問題や、中国の少数民族の問題などをふまえ、大変活発に行なわれ、90分の講演会はあっという間に終わった。